

障がい者との関わり方：身体・知的

以下、神奈川県横須賀市 HP『障害のある人を理解するためのガイドブック（テキスト版） 更新日 2016 年 11 月 22 日』より一部抜粋

ステップ1 障害をより深く理解しよう

- ・障害にはさまざまな種類があり、同じ障害でもその人ごとに症状や程度は違います。
- ・外見だけではわからない障害もあります。
- ・差別をしているつもりはなくても、結果的に差別的な扱いになってしまうこともあります。

ステップ2 情報共有や意思疎通をしよう

- ・必要な情報は、音声・文字・手話など、その人に合ったさまざまなコミュニケーション手段を使って提供しましょう。
- ・相手の意向や必要に応じて、その人に合ったコミュニケーション手段を使って、「ゆっくり」「はっきり」「簡単な言葉で」「ていねいに」「繰り返し」説明しましょう。

ステップ3 ささまざまな場面で積極的にサポートしよう

共生社会の実現

障害のある人もない人も分け隔てられることなく、お互いに人格と個性を尊重しあいながら共生する社会を実現しましょう。

視覚障害

視覚障害には、全く見えない「全盲」、メガネなどで矯正しても視力が弱い「弱視」、見える範囲（視野）が狭い「視野狭窄」があります。

また、生まれつきの障害か、病気（糖尿病・緑内障）や加齢、事故などによる障害（中途障害）にかかわらず、その障害の内容や必要な配慮に個人差があります。

主な特性

- ・視力をほとんど活用できない人の場合、音声、触覚、嗅覚など、視覚以外の情報を手がかりに周囲の状況を把握します。
- ・文字の読み取りは、点字に加えて最近では画面上の文字情報を読み上げるソフトを用いてパソコンで行うこともあります。（点字の読み書きができる人ばかりではありません）
- ・移動には、白杖（白い杖）や盲導犬を利用している場合もあります。
- ・視力のある程度活用できる人の場合は、拡大鏡などの補助具を使用して文字を拡大したり近づいて

<p>見るなど、さまざまな工夫をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「視野狭窄」の場合、視野の中心部しか見えない、あるいは視野の周辺部しか見えないことがあります。 ・その人の状況によって、明るさの変化への対応が難しい場合もあります。 ・必要な情報がきちんと得られれば、ほとんどのことは自分自身でできます。
<p>主な困りの場面</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店などでメニューが読めません。(料理の中に、食べられないものが入っていても、口に入れるまで分かりません) ・お店の中での移動や欲しい商品の選定が難しいです。 ・音声案内のない信号では、信号が変わったことがわかりません。 ・点字ブロックの上に立ち止まっている人がいたり、物がおいてあると危険です。
<p>主な配慮</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・音声や点字表示など、視覚情報を代替する心づかいをしましょう。 ・声をかける時には前から近づき「お手伝いしましょうか」などこちらから声をかけましょう。 ・説明する時に、「あちら」「こちら」「これ」「あれ」といった表現ではなく、実際の方向、長さ、大きさなどを具体的に説明しましょう。

聴覚障害

聴覚障害は、人の声や物音が聞こえない、または聞こえにくいという障害です。外見から障害のあることがわかりにくいことと、話し言葉で情報を得ることやコミュニケーションを図ることができないことで困っています。

この障害は「ろう者」と「中途失聴者・難聴者」の二つに分けられます。

「ろう者」とは手話を第一言語として日常的に使っている人をいいます。手話は日本語とは異なる言語です。したがって、難しい日本語や長い文章が苦手な人がいます。また、発音が不明瞭など、話すのが苦手な人がいます。

一方、「中途失聴者・難聴者」とは、話し言葉を覚えた後に、病気や事故などにより聞こえなくなったり、聞こえにくくなった人をいいます。文字や相手の口の動き（口話）などの視覚情報がコミュニケーション手段の中心で、手話ができるとは限りません。普通に話すことはできても聞き取ることが難しいので、誤解を受けることが多いです。

<p>主な特性</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・手話や文字、図、話している相手の表情や口話など、視覚から情報を得ています。 ・補聴器や人口内耳を付けていても、普通に聞こえるとは限りません。 ・コミュニケーション方法には手話、筆談、口話などさまざまなものがあります。どれか一つで十分ということではなく、相手や場面によって複数の手段を組み合わせています。
<p>主な困りの場面</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・駅の構内などで緊急放送があっても、何があったのかわかりません。

- ・病院などでマスクをしたまま話されても、口の動きが見えないとわかりません。
- ・お店などで口話だけで説明されても分からない場合があります。
- ・自動車のクラクションなどが聞こえないために、避けられずに危険です。

主な配慮

- ・手話や文字・ジェスチャー・口話など、目で見てわかる方法で情報を提示したりコミュニケーションをとりましょう。
- ・口話をする場合は、「少しゆっくりめ」「はっきり」とした口の動きをしましょう。
- ・筆談する場合、長く複雑な文章だと、時間がかかったり、表現によっては誤解を招きます。簡潔に具体的でわかりやすい表現を心がけましょう。

盲ろう

視覚と聴覚の両方に障害を併せ持つ人の総称です。

重要な感覚器官の2つが失われているため、さまざまな場面で、情報を得ることやコミュニケーション、移動が困難な状態に置かれ、孤独な生活を強いられています。

先天的に両方の障害がある場合や、元々どちらかの障害があったところにもう一方の障害が重なる場合（例：聴覚障害者が後に視覚障害を患った）など、発症の経緯はさまざまです。また見え方・聞こえ方の状態や程度も人それぞれで、視覚と聴覚以外の障害を併せ持つ場合など多様なため、一人一人に合わせた支援が必要です。

コミュニケーション手段としては、相手の手話に直接触れて読み取る「触手話」や、相手の指を点字タイプライターに見立て、指に点字を打つ「指点字」、手のひらに文字を書く「手のひら書き」などがあります。少し視力や聴力が残っている場合は、「弱視手話」「筆記」「音声」などの方法があります。

肢体不自由

肢体不自由とは、手や足のまひや欠損、あるいは体幹の機能障害で、立ったり、歩いたり、物の持ち運びなどの日常動作や、姿勢の維持に不自由のあることを言います。移動に車いす、杖、義足、補装具を使用している人もいます。

また、肢体不自由の中でも、脳性まひなどにより全身に障害が及ぶ場合もあります。この場合は、自分の意思に反して手足や顔が動く（不随意運動）という特徴があり、言語障害がある場合もあるため、意思の伝達が困難なことがあります。

障害の程度によってかなりの個人差があり、いくつかの障害を併せ持つこともあります。

主な特性

- ・ベッドへの移乗、着替え、洗面、トイレ、入浴など、日常のさまざまな場面で支援が必要な人もいます。
- ・まひの程度が軽いため杖や装具歩行が可能な場合や、義足を使用して歩行可能な場合は、日常生活は介助を必要としない人もいます。

<ul style="list-style-type: none"> ・長距離の歩行が困難だったり、階段、段差、エスカレーターや人混みでの移動が困難な場合もあります。 ・病気などによる筋力低下や関節損傷などで歩行が困難な場合もあります。 ・失語症や<u>高次脳機能障害</u>ある場合もあります。
<p>主な困りの場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の段差や傾斜、坂道があると移動するときに危険です。 ・歩道や店の通路など、杖をついての歩行や車いすでの移動に、十分な幅がないと困ります。 ・横断歩道の横断時間は、余裕をもって設定されていないと渡り切れないことがあります。 ・商品棚の高いところには手が届かないため、支援が必要です。 ・自動券売機では細かなスイッチやボタンを押すときに手助けが必要になることがあります。 ・電車やバスなどは乗降に時間がかかったり、車内での移動に気配りや手助けが欲しい場合があります。 ・エレベーターや多目的トイレ、障害者用駐車スペースがないと困ります。 ・脳性まひなどによる不随意運動のため、話しかけにくい、接しにくいという先入観を持たれてしまいます。
<p>主な配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者用駐車場には必要な人以外は駐車しないようにしましょう。 ・車いすを使用している人に話しかける時は、腰をかがめて目線合わせるように気を配りましょう。 ・コミュニケーションが苦手な人や言葉の出にくい人もいますが、きちんと話を理解することができます。ゆっくり話を聞いて、その人に合わせた方法で話をしましょう。 ・トイレに杖置きを設置したり、靴の履き替えが必要な場合に椅子を用意するなどの配慮が必要です。

高次脳機能障害

交通事故や脳血管障害などにより、脳にダメージを受けることで生じる認知障害や行動障害などの症状のことをいいます。身体的には障害が残らないことも多く、外見ではわかりにくい「見えない障害」とも言われています。

また、本人に障害の自覚がないこともあり、後でトラブルの原因になることもあります。

<p>記憶障害</p>
<p>主な特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに忘れてしまったり、何度も同じ質問をしたりします。
<p>主な配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手がかりがあると思い出せるので、メモを取ってもらい、お互いに確認しましょう。

<p>注意障害</p>
<p>主な特性</p>

・集中力がなかったり、うっかりミスが多かったりします。
主な配慮
・短時間なら集中できる場合もあるので、こまめに休憩を取りましょう。

遂行障害
主な特性
・計画を立てられなかったり、効率よく順序立てられなかったりします。
主な配慮
・手順書を用意したり、段取りを決めて目につくところに掲示しましょう。

社会行動機能障害
主な特性
・こだわりが強かったり、ささいなことでイライラしてしまいます。
主な配慮
・あらかじめルールを決めておくと、感情をコントロールしやすい場合があります、話題や場所を変えると落ち着くこともあります。

内部障害

内部障害は、主に内蔵機能の障害です。
 外見からは分からないため、周りの人から理解されにくいことがあります。

心臓機能障害
心筋梗塞や狭心症、不整脈などによって心臓の機能が低下した状態で、ペースメーカーなどを使用している人もいます。 動悸、息切れ、疲れやすいなどの症状があります。

呼吸器機能障害
さまざまな病気により呼吸器機能が低下し、体内の酸素が不足する状態で、酸素ボンベなどの酸素マスクや気管内チューブを使用する必要があります。 慢性的な呼吸困難、息切れ、咳などの症状があり、タバコの煙が苦しく感じます。

腎機能障害
病気などにより腎臓の機能が低下して、体内に有害な老廃物や水分が蓄積されます。腎不全になると1日おきの人工透析が一生必要になります。 厳しい飲食の制限と、定期的な通院に対する配慮が必要です。

ぼうこう・直腸機能障害

さまざまな病気によりぼうこうや直腸の機能が低下し、排尿・排便のコントロールが困難です。ストマ（人工ぼうこう・人工肛門）を付けている人もいて、「オストメイト」といいます。
排せつ物の処理やパウチ（尿や便をためておく袋）を洗浄できる広いトイレが必要です。

免疫機能障害

ヒト免疫不全ウイルス（HIV）に感染することによって免疫機能が低下した状態で、抗ウイルス剤を服用します。
血液や精液などにより感染しますが、唾液、汗、尿では感染しません。

これら以外にも、肝機能障害や小腸機能障害もあります。

知的障害

知的障害は、生活や学習面で現れる知的な働きや発達が同年年齢の人の平均と比べてゆっくりとしていることをいいます。外見からはわかりにくい障害です。

発語がなく身の回りの全面的支援が必要な重度の人から、社会的生活を送れる軽度の人まで、障害の現れ方にさまざまな違いがあります。

主な原因としては、生まれつきの障害（染色体異常）や、出産時の脳の圧迫などのトラブル、乳幼児期の感染症や脳外傷などがありますが、多くの場合は原因が不明です。

主な特性

- ・ 複雑な話や抽象的な事柄を理解したり判断することが苦手です。
- ・ 計算することや文字を書いたり

